

4. 御前崎市総合保健福祉センター

御前崎市総合福祉センター

総括

センター長 大橋 弘幸

令和5年度に起こったニュースで医療者にとって最も大きなことは、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から「5類感染症」になったことです。それは新型コロナウイルス感染症がインフルエンザなどと同じ普通の感染症（検査も薬も外来治療も入院治療もすべて保険診療で行う）になったということです。従来は種々のコロナ感染の手続きが必要でしたが、不要となり、その代わりに感染した患者さんに負担（費用）がかかるようになりました。また、新型コロナウイルスが無くなった訳ではなく、ご高齢で本施設に人所されている人たちは、重症化しやすいし、マスクの着用は困難な方も多く集団感染しやすいため、コロナ感染の入所者は、病院のコロナ病棟で入院加療することもありました。本施設ではコロナ感染は、どんなに注意しても完全には防ぐことができません。コロナ自体がオミクロン株となり、軽症化し無症状の人が増えてきたからです。自覚症状のない人は、自分がコロナを移したかどうかもわからないことがあります。入所者のご家族が「誰からうつったのか？」と質問されることも多いのですが、現在のような新型コロナウイルスが蔓延している状況ではわからないことがほとんどです。犯人捜しをするより、感染した入所者を隔離し、適切な薬物療法を行いました。しっかり感染対策をすることで、今のところ一人の入所者もコロナ感染で亡くなられた方はいません。

さて、私は御前崎市総合保健福祉センター長として3年目になりました。療養病棟は、大石俊明先生が今年度も担当され、老人保健施設は宇於崎宏城先生が診てくださっています。おかげで仲良く助け合って運営できています。療養病床や老健は、入所者が療養し生活して生きていく場所ですので、本施設では、少しでも楽しく充実した一日一日を過ごしてもらうことを目指しています。介護員さん、看護師さんが入所者の食事、排尿排便、洗面、入浴、歩行の介助、健康管理や娯楽など生活一般を支えてくださっています。また、リハビリの技師さんたちも、身体機能向上のため熱心にリハビリを行ってくださっています。しかしいまだにコロナの影響で、ボランティアの人たちが、入所者のお話相手などで施設に入り込めない状態が続いています。いつか正常化して外部からどんどんお見舞いすることができるようになると思います。

この施設が、入所者がよりよく生活でき、楽しい時間を過ごせる場所であってほしいと思って仕事をしています。人と人が繋がりがあって、皆さんで高齢者を支える施設であってほしいと考えています。年を取っても最期までその人らしい一生を送っていただきたいと祈念してやみません。また、この施設を支えてくださっている多くの人に感謝します。

居宅介護支援事業所はまおか

今年度は予期せず人員の変動があり、思うような実績とはならなかった。支援依頼をお断りせざるを得ない状況となり、退院支援への協力も厳しい状況となった。また、年度の中盤辺りまでは感染症に係るサービス調整も多かった。

今年度も介護保険の枠での支援だけでなく多方面の連携が必要なケースや、要介護認定を受けている方だけでなくその家族支援が必要なケースなどもあり、介護支援専門員自身も幅広い知識が必要となることを実感した1年であった。

【月別担当利用者数】

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
担当数	88	86	83	83	70	67	65	66	63	58	58	56	70.25

【要介護度別割合】

(単位：%)

要介護	1	2	3	4	5
比率	34	29	17	12	8

【新規利用者紹介経路別人数】 (単位：人)

市立御前崎総合病院地域連携室	7
御前崎市地域包括支援センター	3
市外の病院	1
家族・その他	10
合計	21

訪問看護ステーションはまおか

看護師長 笹原由子

部署目標

1. 在宅における倫理や ACP に基づいたカンファレンスの実践
2. 自然災害発生時における業務継続計画（BCP）に関する知識の習得
3. 接遇マナーの向上
4. 緊急訪問時対応の学習
5. 訪問看護領域の知識習得
6. 訪問件数の維持

評価

訪問看護師数に見合った訪問件数の調整を行い、営業日 25 件/日は達成した。

1. 専門看護師の学習会と倫理 4 分割法を用いて 1 人 1 件の事例検討実施により、ACP を深めることができた。
2. 災害時の BCP が完成し、机上でのシミュレーションにより職員の災害意識は向上した。
3. 訪問看護接遇マナー自己評価 98.7% 自己評価 98% 自己の接遇態度を振り返ることができた。
4. 利用者の状態変化時のアセスメント・対応の事例を振り返り職員間の対応を共有した。
5. 職員自ら選択した院外研修に参加し、伝達講習を行った
6. 職員の減数により新規受け入れを制限せざるを得ない期間があった。9 月に職員が増えたことと営業活動により徐々に訪問件数が増加傾向である。

【令和 5 年度 利用者状況】

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防介護	9	7	10	10	8	5	5	6	7	10	12	11	100
介護保険	227	237	248	212	223	209	212	187	192	212	216	221	2596
医療保険	151	153	137	156	201	182	178	175	195	193	232	198	2151
合計	387	397	395	378	432	396	395	368	394	415	460	430	4847

令和 5 年度 新規利用者：65 名 ターミナルケア加算算定件数：21 件 月の利用者数：404 名前後

通所リハビリテーションはまおか

通所リハビリテーションはまおかは、利用者の心身機能の維持・回復を図り、日常生活の自立を助けるために理学療法や作業療法、その他必要なリハビリテーションを提供している。サービス内容は通所リハビリテーション、介護予防通所リハビリテーション、介護予防日常生活支援総合事業(短期集中予防通所リハビリテーション)、認知症予防事業となっている。令和5年度は新たに夜の運動教室も1度実施した。

【月別通所リハビリテーションはまおか利用人数 (介護予防事業含む)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平日稼働日数 (単位:日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
利用者数 (単位:人)	628	622	686	614	601	621	640	610	592	553	599	585	7,351
一日平均 (単位:人)	31.4	31.1	31.2	30.7	27.3	31.1	30.5	30.5	29.6	29.1	31.5	29.3	30.3
祝日日数 (単位:日)	0	3	0	1	1	1	1	2	0	1	2	1	13.0
祝日利用人数 (単位:人)	0	43	0	15	11	17	16	23	0	15	26	12	178.0

【地域別利用状況】 (単位:人)

池新田	24	合戸	1
塩原新田	3	門屋	3
新野	7	白羽	17
上朝比奈	3	御前崎	16
下朝比奈	6	掛川市	2
比木	5	菊川市	3
佐倉	9	牧之原市	18
その他	1	合計	118

【介護度別利用状況】 (単位:人)

要支援	1	20
要支援	2	14
要介護	1	28
要介護	2	24
要介護	3	18
要介護	4	12
要介護	5	2
合計		118

【年間行事】

4月	—	8月	夏祭り	12月	クリスマス会
5月	新茶会	9月	敬老会	1月	カラオケ大会
6月	—	10月	病院祭作品展示 運動会	2月	節分
7月	—	11月		3月	—

【1年の評価】

本年度は平日については1日平均30名の利用をいただき、年間7,351名の利用をいただいた。また、祝日営業についても13日間の営業にて178名に利用していただいた。10月には市の理学療法士とともに夜の運動教室を開催した。来年度も市内唯一の通所リハビリテーション施設として、質の高いサービスを提供できるよう取り組んでいきたい。

老人保健施設はまおか

看護師長 村松依見

部署目標

1. ベッド稼働率の維持
2. リハビリパンツ使用数の減少
3. 接遇マナーの評価
4. 退院目標の見直し
5. 認知症利用者の支援の振り返り
6. ヒヤリハット対策後の評価
7. 災害時のシミュレーションの参加
8. 窒息時対応のシミュレーションの参加
9. 看護師の学習会の開催
10. 基礎介護に基づいた介護実践の評価

評価

1. ベッド稼働率は、担当相談員、施設ケアマネジャーとベッドコントロールを行い、令和5年6月以降85%以上が維持できた。
2. 利用者の自立支援に向け、アルゴリズム表を用いて排泄評価を行ったことで、リハビリパンツから縮パンツへ変更ができた。結果リハビリパンツ発注数の減少に繋がった。
3. 毎月接遇チェック表で評価し、低い項目は対策案を提示し取り組んだことで、平均3以上が維持できた。
4. 電子カルテの申し送り2を活用し退院目標を可視化したことで、退院目標の見直しが定着した。
5. 認知症利用者の思いや行動をひもときシートに記入・活用し、カンファレンスで振り返ることができた。
6. ヒヤリハット対策後の評価は、手順書を作成し、環境安全ラウンドで検討した内容を発信したことで、毎週の評価が定着した。
7. 災害時のシミュレーションは、アクションカードを使用し実施したことで、初動を意識し行動できた。
8. 窒息時の対応シミュレーションを実施し、急変時の対応等手順や物品が理解できた。
9. 施設における看護師の役割を理解し、看護師は介護福祉士が興味のある学習会を年4回実施した。
10. 介護福祉士は、他者チェックを行ったことで、基礎介護に基づいた実践が確認でき質の担保に繋がった。

【令和5年度 月別利用者状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所延べ人数 (単位：人)	1,090	1,185	1,287	1,387	1,451	1,312	1,482	1,324	1,418	1,356	1,238	1,295
平均利用者数 (単位：人)	36.3	38.2	42.9	44.7	46.8	43.7	47.8	44.1	45.7	43.7	42.7	41.8
病床回転率 (単位：%)	24.0	23.8	20.8	18.8	15.1	14.6	13.4	14.6	14.0	17.9	21.1	22.1
在宅復帰率 (単位：%)	62.5	65.8	63.6	67.7	69.2	70.0	63.2	55.6	50.0	53.3	36.0	40.0
重症度 (単位：%)	29.0	29.5	35.3	40.9	45.4	46.6	46.6	45.5	43.7	40.9	38.7	34.5

*病床回転率は3か月平均、在宅復帰率は6か月平均、重症度は3か月平均である。

医療療養病棟

看護師長 岡本律子

部署目標

意思決定支援の強化と看護介護の専門性の向上、業務改善、病床稼働率の向上

評価

病床稼働率は、昨年度に引き続き入院判定会を必要に応じて持ち回りで行うことなど入院の相談や申し込み後に円滑に入院につなげることができるよう取り組み、さらには、重症患者割合などの施設基準を満たせる範囲で医療区分1の患者の受け入れをするなど柔軟に患者を受け入れることにより、昨年度に比べ病床稼働率の増加につながった。意思決定支援の強化では、患者様やご家族に合わせた療養生活を送れるよう、病状をどのように理解しているか、どのようなことを大事にしているかなどをうかがいながら、看護や介護に反映できるようにした。看護・介護の専門性の向上では、看護師の実践能力向上のためのクリニカルラダーや介護記録の質的監査を活用し、個人の目標管理を行なうことで評価を向上させることができた。また排泄ケアやポジショニングのアセスメントに取り組んだことで介護福祉士の専門性が高まった。さらには、8つの業務改善を行ない働きやすい環境を常に考え行動しつつ、4つの経費削減の取り組みを実践した。

令和5年度 療養病棟 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
述べ患者数(人)	1,436	1,510	1,463	1,498	1,466	1,410	1,488	1,354	1,355	1,438	1,400	1,433
重症患者割合%	92.2	91.2	89.4	87.6	87.3	86.6	86.3	85.3	84.8	83.3	81.0	81.2
死亡退院(人)	7	4	2	5	4	3	7	9	7	5	5	4
病床稼働率%	88.6	91.2	90.3	89.5	87.6	87.0	88.9	83.6	80.9	85.9	92.6	86.2
在宅復帰率%	87.5	80.0	83.3	84.6	86.7	85.7	94.1	100	100	100	100	92.9
在宅復帰指数	0.13	0.13	0.11	0.15	0.19	0.21	0.26	0.21	0.21	0.21	0.21	0.23

重傷者割合：3ヶ月 8割以上 在宅復帰割合：6ヶ月 5割以上 在宅復帰指数：1年 0.15以上